

眼のコラム第6回は白内障についてのお話です。

症状

白内障の症状は、様々な視機能障害です。
瞳の中が白く見えるほどに進行した場合には、手の動きや光がわかる程度に視力が落ちます。
一方、比較的軽度の白内障の場合には、光が眼の中にきちんと入らず散乱してしまうため、とくに明るい場所での視力低下やまぶしさを自覚することが多くなります。

その他、霞んで見える。どんなに調整しても眼鏡があわない。ぼやけて二重、三重に見える。
など濁りの程度や性状により、症状には個人差があります。

原因

白内障の原因の中で最も多いものは加齢によるものであり、これを「加齢性白内障」と呼んでいます。最近では、アトピー性皮膚炎や糖尿病などの合併症として、若い人の発症が増えています。

その他、先天性のもの、ステロイドなどの薬剤使用の影響によるもの、眼の病気に伴って起こるものなどがあります。

診断

白内障を診断するために必要な検査には以下のような検査があります。

- 視力検査
- 屈折検査
- 眼圧検査
- 細隙灯顕微鏡検査
- 眼底検査
- 散瞳検査 など

※ 当院では白内障の検査を随時行っております。

治療

いったん、白内障が進行して水晶体が混濁すると薬などで元の透明性を回復することができないのが現状です。したがって、白内障が進行して、日常生活に不自由を感じるようであれば、手術を行います。

※ 当院では白内障の手術は行っておりません。ご希望の方はご相談ください。

白内障が軽度で、あまり視力に影響のない場合は、点眼薬や内服薬による進行予防をおこないます。現在までに開発された「抗白内障薬」では完全に進行を阻止することは不可能です。

しかしながら、初期の段階であれば、点眼薬・内服薬などの薬物療法を続けることで少しでも進行を遅らせることはできます。医師からお薬を処方された場合は続けるようにしてください。

定期的に専門医の診察を受けて適切なアドバイスを受けるようにしてください。

